

学生、教職員のみなさんへ（緊急事態宣言下の大学について）

2021. 5. 10

学長 谷岡郁子

愛知県でも、5月12日から月末までの緊急事態宣言が発出されることが決まりました。そこで、その間における大学の活動について方針を決定しましたのでお知らせします。

授業について

実験、実習、実技科目は対面授業で行います。

その他、学科によっては国家試験対策科目、教育実習のための事前指導等対面で行うものがあると思います。

その他の科目は、原則リモート授業としますが、対面授業にする必要性が教員からその根拠と予防対策について、説明を添えて申請された場合は、これを認める方針です。

教員のみなさんにおかれましては、迅速な対応をお願いします。また、リモートに切り替えると課題が多くなると思いますので、各学科において適切な量を超えないよう対応をお願いしたいと思います。

学生の皆さんは、大学からの連絡をこまめにチェックするようお願いいたします。

また、この期間中に通学することに大きな不安を抱える人は、学科担任やサポセンの学務課に相談してください。できるだけ安心できる状況にできるよう、それぞれの事情に対し、できる限りの対応をしたいと思います。

部活等課外活動について

細心の注意をはらって、しっかり予防対策を実行するという条件の下で活動することは認めます。練習のやり方や消毒については、全般的にかなりしっかりできていると思いますが、試合や練習前後のチームメイトとの交流や着替えの場面では危険と感じられるような場面もあると聞いています。気をつけましょう。

大学の施設利用について

緊急事態が発令されていても大学を閉鎖するわけではありませんので、施設の利用は可能です。対面授業がなくても、大学でリモート授業を聞くこと、勉強することは可能です。また、貸出用パソコンがまだかなり残っていますので、スマホの小さな画面でのリモート授業で苦勞している人は、ぜひ利用してください。とても軽くて運びやすく、使いやすいパソコンだと思います。一定、長期に亘って借り出すことも可能です。

変異ウイルスと予防対策について

英国株、インド株などと呼ばれているコロナ・ウイルスの変異体は、これまでのウイルスより遥かに感染力が強く、どんどんその割合が増えてきていると思われます。これは、私たちの学内検査の状況からも推測できます。この1年間に十分な予防策と考えられてきたことでは、変異ウイルスによる感染は防ぎ切れないのではないかと危惧します。今までより一層の対策が必要です。移動場所に到着するたびに入念に手を洗う事、できる限り不織布のマスクを使う事、持ち物を消毒することを励行してください。密にならないよう気を配ってください。小さなことをしっかりやるのが、何よりの予防策だと思います。ウイルスは、「つい、うっかり」という状況や「このくらいは大丈夫かな?」と思われるところにつけ込むのが上手な気がします。

もちろん、しっかり予防していても、気を抜いていなくても感染してしまう場合もあります。だから、感染しても自分自身を責めないでください。罪悪感も持たないでください。

感染が気になったら、できるだけすばやく大学に相談してください。担任でも、部長でも、学生相談室やサポセン、あるいは私自身でも相談しやすいところがかまいません。

これまでも、多くの学生たちが早め早めに相談してくれたこと、積極的にPCR検査を受けてくれたことで感染の広がりを防ぐことができました。また、早く陽性になったことを確認して療養した結果、ほとんどの人は発症を防ぐことができました。まれに発症したケースでもとても軽い症状で終わっています。このウイルスは迅速に対応することがとても大事だと感じています。そして、これに協力してくれたこれまでの学生たちに、私は心から感謝しています。だから、陽性者、濃厚接触者になった人々は他への感染を防いでくれた人として全力で守ります。個人情報管理には細心の注意をはらっていますが、同時に授業担当者等必要な人には連絡が行きますので療養中、自宅待機中になってしまった場合は担当教員に申し出てください。課題を与えられて、提出した場合には欠席の扱いにはしません。その他不安や心配なことは、リモートで利用できるのも、学生相談室に相談してください。

ひょっとして感染している?と心配な人は飛び入りで検査を受けることができます。遠慮なく申し出てください。

向かい風が吹いているとき、つまり前に進むことが困難なときにこそ、人間は成長するし、賢くなれるのだと、私は信じます。辛さを分かち合い、支え合うことができるのが友であり、仲間だと思います。私たち、至学館の仲間は、こういう状況だからこそ、支え合って笑顔がいっぱいの日々を送りたいと思います。協力してください。